

# 方針と活用の仕方にについて

「鶴岡灯油裁判資料室だより」の編集

去る6月2日、資料室運営委員委員5名が集まり、協議の結果、8月から「鶴岡灯油裁判資料室だより」を発行していくことになりました。

資料室は、昨年10月22日にオープンし、一応、出来ました。そして、出来つた。そういうのが実情で、やうなわけなければならない

細かい仕事がたくさん残っています。そこで、「資料室だより」では、まず、資料整理の進捗状況を逐次お知らせしていくことにしました。

また、元原告の方々に登場いただき、「自身と灯油裁判との関わりを縦横に語っていたりをしながら、現在の共立社組合員の皆さんに、生協運動への思い

やメッセージが伝わることにしました。さらに、「灯油」という窓を通じて、現代日本の政治経済の構造を学ぶ」というものであつたことから、灯油裁判の目を通して、今日の時事問題に対する視点を提供することも必要であろうということになりました。その時々において

お知らせ活動としては、A4班4ページ仕立てで、発行部数は200部です。配布対象は、①資料室設立に関わった県内外の個人・団体に100部、②各地域生協の地域役員に200部、③鶴岡生協の班長さんに1500部、④その他200部です。なお、これだけだと

合間に資料室の取り組みを知つてもらうようになります。記事を取り上げてもらいたい、共立社全地域の組合員に資料室の取り組みをするため、同紙の編集委員会に働きかけています。

◎松本政裕（共立社理事長・運営委員会代表）  
◎脇山淑子（元原告代理人）  
◎立川常子（元原告）  
◎樋口繁雄（元原告）  
◎鶴岡灯油裁判資料室運営委員会の構成  
◎小竹喜恵（元原告）  
◎佐竹完仁（元原告）  
◎金山喜久子（元原告）  
◎工藤博司（元共立社常務理事）  
◎高橋憲志（共立社理事・共立社鶴岡生協地域理事会副議長）  
◎佐藤安太郎（共立社理事・共立社鶴岡生協地域理事会議長）  
◎天野恭子（共立社鶴岡生協地域理事会副議長）  
◎佐藤花子（共立社鶴岡生協地域理事会議長）  
◎小林典子（共立社鶴岡生協地域理事会副議長）  
◎伊藤穂（共立社組織部長）  
◎佐藤妙子（組織部）  
◎土田光恵（組織部）  
◎大内正芳（前広報担当）  
◎伊藤穂（共立社組織部長）  
◎本間篤（共立社総務部長）  
◎大内正芳（前広報担当）  
◎伊藤穂（共立社組織部長）

地区理事会等の単位で、DVDの視聴活動と見学活動をすすめます。DVDの収集、整理、保存、展示に役立てます。事務局メンバーを中心、目録作成をすすめます。月1回程度のペースですすめます。整理、展示している資料を一覧表にするところから始めます。前広報担当が寄贈した「生協二コース」の資料活動家を組織する手腕にショックを受けた。「これら」の諸活動を見て回り、事務局の伊東玲子さんの組合員活動家を組織する手腕教わり、「教育活動センター」の諸活動を見て回り、「地域教育活動」について、生協運動の「何をどう伝えられるか」をおぼろげながら掘りかけてきた。（つづく）

## 「生協二コース」と私①

（前広報担当）大内正芳



去る6月2日、資料室運営委員委員5名が集まり、協議の結果、8月から「鶴岡灯油裁判資料室だより」を発行していくことになりました。

資料室は、昨年10月22日にオープンし、一応、出来ました。

しかし、「資料室は出来た。そして、出来つた。そういうのが実情で、やうなわけなければならない

細かい仕事がたくさん残っています。

そこで、「資料室だよ

り」では、まず、資料整

理の進捗状況を逐次お

知らせしていくことにしました。

また、元原告の方々に登場いただき、「ご自

身と灯油裁判との関わ

りを縦横に語っていた

だきながら、現在の共

立社組合員の皆さんに、生協運動への思い

を通して、現代日本の

政治経済の構造を学

ぶ」というものであつたことから、灯油裁判の目を通して、今日の時事問題に対する視点を提供することも必要

であろうということになりました。その時々において

あります。灯油裁判の

ことを通じて、今日の

時事問題に対する視点を提供することも必要

になります。その時々において

